

知っておきたい キーワード

KEY WORD

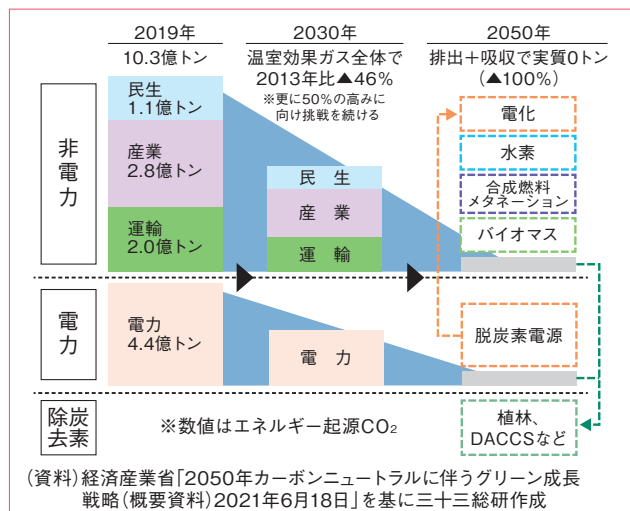
グリーントランスフォーメーション (GX)

環境保護と産業競争力向上の両立に向けて経済社会システム全体の変革を行う「グリーントランスフォーメーション (GX)」が、デジタルトランスフォーメーション (DX) に次ぐ成長戦略として、欧米を中心に広がりを見せています。GXが重要視される背景には、世界で深刻さを増している地球温暖化をはじめとした世界的な気候変動への危機感があります。気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第6次評価報告書 (2021年8月) は、1750年以降、温室効果ガスの増加は人間活動によって引き起こされたことに疑う余地がないとし、世界平均気温は考慮した全ての排出シナリオにおいて少なくとも今世紀半ばまでは上昇を続け、向こう数十年の間に温室効果ガスの排出が大幅に減少しない限り、21世紀中に1850～1900年と比較して1.5℃及び2℃の地球温暖化を超えると発表しました。

わが国においても2020年10月に政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラル (CN) を目指すことを宣言しました。2021年4月には2030年度の新たな目標として、温室効果ガスの排出を2013年度から46%削減することを目指し、さらに50%の高みに向けて挑戦を続ける方針を発表しました (図表1)。CNの達成は今や世界共通の目標となり、温暖化への対応を経済成長の制約やコストとする時代は終わり、成長の機会と捉える時代になりつつあります。わが国がCNを実現し、さらに世界全体のCN実現にも貢献しながら、そのための対応を成長の機会として捉え産業競争力を高めていくためには、CNにいち早く移行するための挑戦を行い、国際ビジネスで勝てるような企業が自社以外のステークホルダーも含めた経済社会システム全体の変革であるGXを牽引していくことが重要となります。

こうした背景から2022年2月に経済産業省は、GXへの挑戦を行う企業が温室効果ガスの排出量削減に貢献しつつ、外部から正しく評価され成長できる社会 (経済と環境および社会の好循環) を目指し、同様の取り組みを行う企業群や官・学と共に協働する場としてGXリーグを設立しました。参画する企業には自らの排出削減だけでなく、自らのサプライチェーンや、生活者、教育機関、NGO等の市民社会など幅広い主体と協議し、炭素中立型の市場設計を先導する役割が求められます。440社が賛同を表明したGXリーグでは、①未来社会像対話の場、②市場ルール形成の場、③自主的な排出量取引の場、の3つのプロジェクトが2023年度に本格稼働し、先駆的取組を主導する事業者間での対話を通じた政策形成が行われます (図表2)。GXリーグの施策によって、2050年CNが加速し、新たなビジネスモデルの創出やグリーン市場の拡大につながるGX社会の実現が期待されます。

図表1 2050年カーボンニュートラルの実現



図表2 GXリーグが提供する3つの場 (プロジェクト)

プロジェクト	内 容
①未来社会像対話の場	参画企業に加え、官学民の幅広いステークホルダーがワーキンググループを構成して、生活者に対して2050年CNの持続可能な未来像と、そこに向けた経済社会システムの移行像を示す。
②市場ルール形成の場	上記の未来像の実現に向けたルールメイキングの議論を進めることにより、進展する技術の社会実装・事業化に向けた機会拡大と、市場創出、生活者への価値提供を更に加速させる。
③自主的な排出量取引の場	高い排出量削減目標を自主的に掲げ、その達成に向けた取組状況の報告と、カーボン・クレジット市場を通じた自主的な排出量取引を行う。

(資料) 経済産業省「GXリーグ基本構想」を基に三十三総研作成

三十三総研 調査部 主任研究員 中田 丈仁